

市民参画によるまちづくり指標の設定と 総合計画への反映

東海市

○ 取組の概要

市民参画推進委員会により、市民へのインタビューやアンケート等を踏まえて、「重要生活課題」と「まちづくり指標」を設定。まちづくり指標には、「現状値」、「めざそう値」、「役割分担値」を設定し、総合計画を策定する際に、施策体系づくりや成果指標設定に活用。

○ 東海市の概要



東海市の概要

市役所所在地

●愛知県東海市中央町1-1

人口

●102,425人

※H17.3.31現在（住民基本台帳人口）

○ 取組について

1. 取組の背景

- ・平成13年5月に現鈴木市長が就任。選挙公約として掲げた「市民参画の推進」を実現するため、10月に「市民参画推進室」を設置した。
- ・市民参画推進室で具体的な市民参画の実現方法を検討し、自治基本条例や市民参画条例の制定に取り組むとともに、青森県で行われている「政策マーケティング」の事例を参考に、市民参加によるベンチマークの設定に着目した。第4次総合計画の期間中であったが、新しい総合計画の前倒しの策定や運用とも連動させることを想定した。
- ・平成14年2月に市民委員47名（公募委員25名＋各種団体代表22名）と学識経験者3名からなる「市民参画推進委員会」を設置。市民の視点から、市独自のまちづくり指標の設定に取りかかった。

2. 取組の具体的内容

<市民ニーズ調査>キーワードと生活課題の設定

- ・平成14年4～7月に、市民参画推進委員と児童・生徒、20代の市民へのインタビューにより、約100の生活課題をリストアップ。それらを7つにグループ分けしてキーワードを設定し、まちづくりの理念の候補とした。
- ・8月に16歳以上の市民3,500人を対象にアンケート調査を実施（回答率46.1%）。その結果を受けて、推進委員会にて、5つのキーワードと38の重要生活課題を選定した。

<まちづくり指標の設定>

- ・平成14年10～12月に、市の職員も参加して議論し、38の重要生活課題を測るものさしとして、99の「まちづくり指標」を設定。
- ・さらに「まちづくり指標」それぞれについて以下を設定。
 - ①「現状値」：現時点の数値。既存データがないものは新たにアンケート調査を実施して算出。
 - ②「めざそう値」：5年後、10年後の目標値。委員及び5つの政策分野で各20名（計100名）の関係者・当事者にアンケートを実施して設定。（中央値を採用）
 - ③「役割分担値」：主体を1)個人・家庭、2)NPO・市民団体、3)コミュニティ・町内会、4)企業・農協・商工会議所、5)学校、6)市、7)県・国、8)その他、の8つに分け、委員、関係者・当事者、市役所職員にアンケートを実施して設定。

【重要生活課題及びまちづくり指標の一例】

5つのキーワード	38の重要生活課題	99のまちづくり指標
①安心 みんなが安全に、不安なく生活している	1. 大気汚染、ばいじん、汚臭がなく、空気がきれいである 2. 下水道が整備され、生活排水が適切に処理されており、川や海などの水がきれいである ↓	1. 20歳以上の特定疾病患者数 2. 降下ばいじんの量 3. 大気汚染基準値の達成率 4. 河川のBOD濃度・海のCOD濃度 ↓
②快適 さまざまなサービスが便利に使え、気持ちよく暮らせる環境が整っている	14. まちや公園にごみ落ちていない 15. ごみの減量化やリサイクルが進んでいる 16. 保健・医療・福祉の連携が図られ、総合的なサービスが提供されている ↓	32. 道路や公園にごみが目立つと思う人の割合 33. 公園のごみの回収量 34. 市民一人当たりのごみの排出量 35. 市民一人当たりのごみの資源化量 ↓
③いきいき 一人ひとりが生きがいを持ち、充実した日々を送っている	24. 高齢者が活躍できる場があり、生きがいを感じている 25. 介護・福祉などにかかわる人材が豊富である 26. 青少年が健全に成長できる環境である ↓	59. 生きがいを持っている高齢者の割合 60. 高齢者のボランティア活動・地域活動への参加率 61. 就労したいが働く機会のない高齢者の割合 ↓
④ふれあい 世代・立場・地域などをこえた交流が活発で、人々が支え合っている	29. 障害者や高齢者を持つ家族への支援がされている 30. 障害者についての理解を促す教育が行われている ↓	74. 障害者の家族の内、社会参加したいができない人の割合 75. 障害者や高齢者を持つ家族の中で、身近に相談できる人や機関がある人の割合 ↓
⑤活力 農業・工業・商業が盛んで、まちに活力がある	34. 魅力的な飲食店や商店がたくさんある 35. 商店街が活性化している 36. 新しい地場産業や特産物が生み出されている 37. 区画整理や農地整理が進み、土地が有効に利用されている ↓	86. お気に入りの飲食店ベスト5の内、東海市内の店の数 87. お気に入りの商店ベスト5の内、東海市内の店の数 ↓

＜総合計画への反映＞

- ・ 総合計画の策定にあたって、推進委員会が設定した5つのキーワードを「まちづくりの理念」に、99のまちづくり指標を「成果指標」として採用するなど、総合計画の骨格として反映。
- ・ 38の重要生活課題については、39の施策に対応させるとともに、行政の観点から足りない部分を補うために14施策を追加し、全体で53の施策による体系を構築した。

＜評価・提案・確認の大会の開催＞

- ・ 平成16年3月に「まちづくりガイドブック」を作成し、推進委員会は終了。後継組織として、公募委員38名、推薦委員12名による「まちづくり市民委員会」を6月に設置。8月に「評価の大会」、10月に「提案の大会」を開催しており、17年6月には「確認の大会」を開催。
- ・ 委員会では、今後毎年3つの大会を開催していく予定。

3. 取組にかかる事業費

- ・ 平成14・15年度市民参画推進委員会の運営・指導委託（NPOに委託）
2,892千円
- ・ 平成16・17年度まちづくり市民委員会の運営・指導委託（NPOに委託）
3,532千円
- ・ まちづくりガイドブックの印刷製本（毎年作成）
16年度630千円、17年度840千円

4. 取組の体制

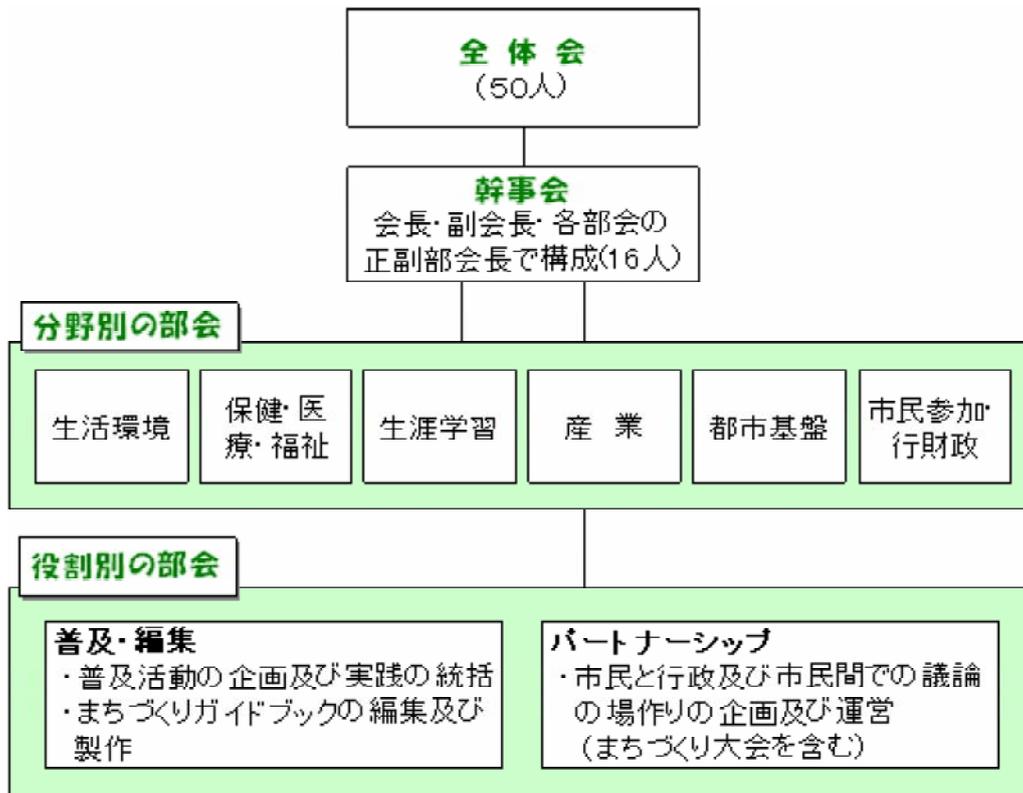
<行政側の体制>

- ・ 企画政策課が事務局として会議（部会を含む）に分担して出席
- ・ 会議の協議内容により、各担当部課の職員も出席

<住民側の体制>

○まちづくり市民委員会

- ・ 委員構成 公募による委員 38人
 推薦による委員 12人 合計 50人
- ・ 委員の任期 平成 16年 6月 1日から平成 18年 5月 31日の 2年間
- ・ 活動予定 年間を通じ、全体会・幹事会・各部会で活動を実施
 年 3回の大会（評価・提案・確認）を実施



5. 取組の成果

- ・ 市民委員は無報酬にも関わらず熱心に活動しており、市民参画が進展した。「市民と市政の距離が縮まった」と話す市民委員が多い。
- ・ 市民と市の職員が話し合う機会が増えたことにより、市の職員の説明能力が高まった。
- ・ まちづくり基本条例及び総合計画が市政運営の柱となり、まちづくりの方向性がはっきりした。

- ・ 市民が成果指標の現状値を把握した上で、評価→具体的な事業等の提案→予算等への反映の確認、というサイクルが動き出すとともに、実施計画や予算の編成方法の改革につながった。

6. 今後の課題

- ・ 多様な活動主体と連携して総合計画を具体的に進めていく必要がある。
- ・ 身近な生活課題が主体の総合計画であるため、ビジョンが示されていない。
- ・ より多くの市民にまちづくりに参画してもらい、市政に反映していく必要がある。
- ・ 市民委員会サポーター制度の充実を図るなど、活動が委員以外の一般市民へと広げていく必要がある。
- ・ まちづくり市民委員会をはじめ、他の市民団体やコミュニティ等の地域団体の連携を強める必要がある。
- ・ まちづくり市民委員会のあり方を明確にする必要がある。